

# 都市再生整備計画(第3回変更)

つちやまえきしゅうへん  
JR土山駅周辺地区

兵庫県 はりまちょう  
播磨町

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	はりまろう 播磨町	地区名	つちやまきしゅうへん JR土山駅周辺地区	面積	80 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

- 大目標: 播磨町の顔として「にぎわい・うおい拠点」の形成による交流空間の創造
- 目標1: 駅前の土地利用の再編により、町の玄関としてのにぎわいを再生する
- 目標2: 悠久の歴史文化資源を活かし、住民・観光客等の交流を促進する
- 目標3: 豊かな水と緑を活かし、歩行者ネットワークの魅力向上を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 播磨町は、兵庫県東播磨地域の拠点として播磨臨海工業地帯の一翼を担い、面積は小さいが県内の町では最も人口の多いまちである。
- 町内には、JR山陽本線土山駅や阪急・阪神電鉄と相互乗り入れしている山陽電鉄の播磨町駅があり、国道2号が通過するなど、交通至便地である。
- JR土山駅は、町の玄関であるとともに隣接する明石市・加古川市なども駅勢圏に含まれ、神戸・大阪・姫路と東播磨地域を結ぶ広域交通の拠点である。
- また町内には、県内有数の遺跡である弥生時代の「大中遺跡」や2級河川「喜瀬川」・ため池などの自然資源、旧鉄道敷地を活用した「緑道であいのみち」など個性的な地域資源が存在している。
- JR土山駅は、駅利用の利便性向上のため進めていた駅舎橋上化・自由通路整備事業が平成15年末に、南北駅前広場の整備が平成16年に完成するなど、交通結節点機能の強化を進めている。
- 土山駅南側に位置する日本テルベン化学土山工場は、昭和30年代に町の工場誘致条例によって誘致したが、当時と比べて周辺の住宅事情も変わってきたことから、かねてより同社に対して移転を働きかけていた。
- このような中、同社から工場を全面移転したい旨の申し出があり、工場移転後の用地1.3haを町が取得することになった。
- 町では駅利用を高めるとともに駅を活用したまちづくりを推進するため、平成14年度に工場跡地利用を検討する住民代表15名による整備計画検討委員会を計5回開催した。
- 同じく平成14年度に同工場跡地が、国土交通省の「低・未利用地活用促進モデル調査」地区に選定され、国から土地利用についての提言を受けている。
- 平成15年度には、これら検討委員会の意見や国からの提言を基に工場用地を中心とした駅南側の1.6haの区域について具体的な土地利用・整備手法などを検討するため、「土地利用転換推進計画策定事業」(国の間接補助・県補助事業)による策定協議会を設置し、協議会での議論や住民意見募集・アンケート調査などを通じて「土山駅南地区土地利用基本計画」を策定した。
- また土山駅北地区においては、駅機能の強化にあわせて駅前商店主を中心にまちづくりの機運が盛り上がり、平成14年度には「土山駅北地区まちづくり推進協議会」を立ち上げ、ワークショップの開催や先進地視察を通じて「JR土山駅北地区整備計画」を地元で策定するなど、都市機能の更新及び住環境の改善を図るべく住民主体の活動を展開している。
- 地区西側に位置する国指定史跡の「大中遺跡」周辺は、歴史専門家・住民代表・地元代表らの意見を踏まえて平成11年3月に策定された「はりま文化ゾーン総合整備基本計画」のAゾーンに位置付けられ、来訪者や住民が考古学の世界を体験できる場・知的活動の場として、あるいは生涯学習の場として施設整備が計画され、平成19年には新しいスタイルの参加体験型博物館として「兵庫県立考古博物館」がオープンした。
- 町では同博物館の開館に併せて周辺を「大中遺跡公園」として整備し、整備済の野添であい公園(Bゾーン)や野添北公園(Cゾーン)とともに大中遺跡を核とした歴史・文化・レクゾーンの形成を図っている。
- また大中遺跡では、「大中遺跡まつり」「古代体験教室」などのイベントが定期的に実施されている他、県立考古博物館の立ち上げ、運営に関連して考古学ファンを中心に様々なボランティア活動の機運が盛り上がりつつある。
- JR土山駅と大中遺跡を結ぶ「緑道であいのみち」は、安全・快適な歩行者空間として通勤や通学あるいは散策等に利用されており、「ふるさとの川整備事業」で整備中の「喜瀬川」や周辺のため池とともに、水と緑のネットワークの基幹軸となっている。

- 課題
- これまでの本町の都市行政は、臨海工業地帯の一翼としての産業環境や住宅都市としての基盤整備に重点を置いてきたが、今後の都市経営の戦略として、小さくても力強く魅力的で自立できる播磨町をつくるために、町の顔となる駅周辺の都市機能の再編・充実と播磨町らしい地域資源を活かした交流拡大と生活環境の高質化がまちづくりの課題となっている。
- 駅周辺の交通結節点機能強化に合わせ、駅南地区における工場跡地等の土地利用再編と高度利用による駅前利便商業サービス施設・都市居住・公共サービス機能等の充実が求められている。
  - 住民同士や、県立考古博物館の開館に合わせて増加した来街者と住民との交流を図る上で、有数の歴史資源である「大中遺跡」を核とした歴史・文化・レク活動の拠点形成が課題となっている。
  - JR土山駅と大中遺跡を結ぶ既存の歩行者・自転車専用道として「緑道であいのみち」があるが、今後は住民や観光客等のための東西両拠点のアクセス改善と連結強化や安全で快適な生活環境づくりのために、既設の緑道と喜瀬川及び周辺のため池等を面的に結ぶ歩行者ネットワークの充実・魅力向上が課題となっている。

将来ビジョン(中長期)

播磨町の玄関口として都市機能の充実と水と緑豊かなまちづくりによる交流空間づくり

- 町の第3次総合計画では「古代から 輝く未来へ！みんなでつくるまち はりま」を基本に、JR土山駅周辺において「人が集まり、ふれあい、交流する場」として位置づけられている。
- 都市計画マスタープランでは、対象地区のまちづくり方針として「JR土山駅周辺のまちの顔づくり」「大中遺跡を中心としたレクリエーション核の形成」「河川・ため池などの自然環境の保全・活用」「地域コミュニティ形成に向けた施設の整備」などが位置づけられている。
- 緑の基本計画においては、対象地区は「まちの玄関を飾る緑の核」として、駅前から「緑道であいのみち」「野添北公園」「大中遺跡」に至る「北の緑の拠点」に位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
目標1: 駅の乗降客数(非定期)	千人/年	JR土山駅の非定期の乗車人数(JR西日本調べ)×2	来街者の増加によるにぎわいの再生を目指す。	2,448	2,600	平成14年度	平成21年度
目標2: 遺跡周辺入込み客数	千人/年	大中遺跡、遺跡公園、郷土資料館利用客数	拠点整備や関連整備による遺跡周辺利用者の5割増を目指す。	100	150	平成15年度	平成21年度
目標3: 緑道利用者数	人/日	「緑道であいのみち」の歩行者・自転車交通量	町内の回遊性向上を目標に、緑道利用者の2割増を目指す。	1,440	1,730	平成14年度	平成21年度
目標1~3共通: イベント開催数	回/年	地区内におけるフリーマーケットやイベント等の開催数	歴史文化・環境等に関する意識の高揚や住民・観光客等の交流の契機として、イベント等開催数の増加を目指す。	3	5	平成15年度	平成21年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針1: 多彩な複合機能の導入によるにぎわい拠点の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の文化・交流スペースの整備</li> <li>・行政窓口サービス、図書館との連携による図書検索・貸出サービス施設の整備</li> <li>・大中遺跡等地域資源の展示・情報発信などPR施設の整備</li> <li>・地元企業の研修・異業種交流、地域活動の場となる多目的スペースの整備</li> <li>・駅利用者や町内レンタサイクルに利用できる自転車駐輪場の整備</li> <li>・駅前憩いの場やフリーマーケット等イベントの場として、地域住民の維持管理による緑地の整備</li> <li>・駅周辺の安全で円滑な交通処理、歩行者等の安全確保のための道路整備</li> <li>・医療機関等、町民サービスの向上に資する施設の誘致</li> <li>・これらの施設整備に関しては、美しい駅前景観形成のため新駅舎や駅前広場との調和を重視し、屋上緑化や雨水再利用など環境共生型の施設整備、バリアフリーやユニバーサルデザインにも配慮した整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はりまガーデンプラザ整備事業(基幹事業/公園)</li> <li>・駐輪場自歩道整備事業(基幹事業/地域生活基盤施設)</li> <li>・町道古宮土山線整備事業(基幹事業/道路)</li> <li>・はりま複合交流センター整備事業(関連事業)</li> <li>・医療機関等、町民福祉の向上に資する施設の誘致(関連事業)</li> <li>・地区再生計画作成事業(関連事業/リジウム事業)</li> <li>・PFI導入検討事業(関連事業/民間資金等活用調査費補助事業)</li> </ul>
<p><b>整備方針2: 大中遺跡を核とした交流空間の形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連事業である県立考古博物館整備の効果を高めるため、博物館へのアクセス道路の整備や周辺環境の整備</li> <li>・大中遺跡や博物館の運営・施設の維持管理、観光客向けのツアーガイドなどボランティア活動団体の育成</li> <li>・大中遺跡に関連する多彩なイベントの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町道大沢中線整備事業(基幹事業/道路)</li> <li>・古代体験教室(提案事業/まちづくり活動推進事業)</li> <li>・県立考古博物館整備事業(関連事業/県事業)</li> <li>・大中遺跡公園整備事業(関連事業/都市公園事業)</li> <li>・町道大中二見線整備事業(関連事業/緊急道路整備事業)</li> </ul>
<p><b>整備方針3: 既存資源を活かした水と緑のネットワークの充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR土山駅から大中遺跡への歩行者・自転車アクセスとしての魅力向上と利用者の安全性向上を図るため、既設の「であいのみち」と喜瀬川を渡る「ふるさと橋」のグレードアップを行う。</li> <li>・さらに生活環境の改善、観光客等の回遊性を高めるため、喜瀬川での河川環境整備及びため池の環境整備を行い、親水空間や自然とのふれあいの場を確保する。</li> <li>・また、河川やため池の清掃活動・環境学習のボランティアなど活動団体の育成、関連するイベントの実施を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの川整備事業(基幹事業/高質空間形成施設)</li> <li>・であいのみち改修事業(基幹事業/高質空間形成施設)</li> <li>・ふるさと橋改修事業(基幹事業/高質空間形成施設)</li> <li>・ため池環境整備事業(関連事業/都市公園整備事業)</li> <li>・河川美化活動(提案事業/地域創造支援事業)</li> <li>・コミュニティ花壇づくり(提案事業/まちづくり活動推進事業)</li> </ul>
<p><b>その他</b></p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動          計画区域内に整備予定のはりまガーデンプラザ、はりま複合交流センター及び医療機関誘致予定地一体は、みどりと共生するゾーンで“はりまの杜”として環境形成を図り、各種施設は相互に連携しながら住民の「まちづくり文化」を育成し地域への愛着や誇りづくり・まちづくり活動の拠点づくりの場として効果が期待される。          また、隣接する交流センターと一体化した各種イベントの開催や、毎年「緑の日」に開催される大中遺跡周辺での健康福祉フェア・緑化フェアとタイアップしたイベントの実施など、継続したにぎわい創出が見込まれる。          一方、駅北側の既成市街地については、地元まちづくり協議会や他市町とも連携を図りながら調査・計画策定に努め、引き続き住民との協働による都市の再生を目指す。</p> <p>○交付期間中の計画管理について          交付期間中における各種事業の円滑化と目標達成に向けて確実な効果を上げるため、定期的に住民意見箱やアンケート調査・町政モニター員制度を活用して、事業成果についての評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。また、その結果は随時、広報・HPを通じて住民に公表する。</p>	



都市再生整備計画の区域

JR土山駅周辺地区(兵庫県播磨町)	面積	80 ha	区域	播磨町野添の一部、大中の一部
-------------------	----	-------	----	----------------

